

令和元年度武雄市立武雄北中学校学校評価結果

1 学校教育目標		2 本年度の重点目標				達成度			
・「学ぶ」 ・「耐える」 ・「感動する」 生徒の育成		「学ぶ」確かな学力の育成 「耐える」たくましく生きるための健康と体力の増進 「感動する」人間力を育てる『夢プロジェクト』の推進、豊かな心の育成 「地域との連携強化」コミュニティ・スクールの推進				A: ほぼ達成できた B: おおむね達成できた C: やや不十分である D: 不十分である			
3 目標・評価									
①学びプロジェクト…確かな学力の育成									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者 評価委員 の評価 (A～Dで 記入)	意見や提言など
教育活動	●志を高める教育	やりたいことを見つけてそれに向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・志を持ち、目標に向かって主体的に考え、努力できる生徒を育てる。	・進路学習や行事を通して夢を持ち、それを認め合い、支援できる学校の雰囲気作りを図る。 ・夢の実現に向け810運動を通して、1日2時間の家庭学習の目標を持ち、努力し続ける力を身に付けさせる。	A	・進路学習については、各学年で計画的に行うことができています。学年間の情報共有などももう少しできたと思う。 ・810の取り組みについて、保護者アンケートの結果は昨年度とほぼ同じである。希望の進路実現のために、家庭学習の習慣化や基礎的な学力の大切さを意識させ、自学ノートの取り組み方を変えることができた。	・810については、継続して取り組み意識付けを行う。内容の充実を図りパンフレットの配布や集計結果の報告を行い、保護者の協力をお願いする。 ・自学ノートは今後も毎日の授業の学びを書かせていきたい。	A	810運動は今後も是非続けていってほしい。 志は個々に違うと思うので、武北としての志を共有してらいいのではないと思う。
	●学力向上	言語活動の充実と自学の向上	・話し合い活動及び書く活動に焦点をあて、主体的に学び表現する生徒を育てる。	・全職員が研究授業を行い、指導方法を工夫する。授業に、話す・書く等の表現活動を積極的に取り入れ、生徒の意識向上を図る。 ・学びの基礎作りのために、810大作戦を継続し、テスト期間だけでなく、日常の家庭学習の充実を図る。	A	・全職員が研究授業を行い、授業研究会等を通して指導方法について考えることができた。 ・授業の中で積極的にグループ活動を取り入れ、話し合い活動を充実させ、思考の広がりを感じている生徒が増えた。 ・書く活動については新聞のコラム欄の視写タイムを実施し、生徒は意欲的に取り組むことができた。 ・810の取り組みにおいて、保護者アンケートの結果は昨年度とほぼ同じである。	・授業に話し合い活動や書く活動を積極的に・継続的に取り入れ、さらに生徒が意欲的に活動できるよう手立てを工夫する。 ・810については、継続して取り組み、これまでの調査結果を学年ごとに集計したものや校内掲示することで、意欲を高めていきたい。また、内容の充実を図りパンフレットの配布や集計結果の報告を行い、保護者の協力をお願いする。	A	文化発表会で展示されていた毛筆・硬筆が皆上手で驚きました。 先生方の指導のおかげで、生徒の学力が向上していることが見て取れる。 将来の人生の中で、一番基礎となると思うので、しっかり取り組んでほしい。
②忍耐プロジェクト…たくましく生きるための健康と体力の増進									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者 評価委員 の評価 (A～Dで 記入)	意見や提言など
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と自己管理能力の育成	・「食」の大切さを理解し規則正しく生活する生徒を育てる。	・食に関する専門的な知識や日々の生活で役立つことを、年間計画をもとに栄養教諭と連携して指導する。 朝食摂食率90％以上を目指した食育の指導を行う。 学校栄養職員による「スポーツ栄養実習」を、部活動(運動部)の生徒対象に実施する。	A	・部活動と日頃の食生活が深く関わっていることを理解し意識させるため、中体連前に食育教室で「熱中症の予防と応急処置」について部活動別に学びることができた。朝食摂食が1日をスタートさせる上だけでなく重要なこと、部活動を中心とした運動を行っている際に熱中症になった場合、どのように応急処置を行うかを学ぶことができた。また、熱中症は予防できることを理解し、試合に勝つための心構えを学ばせることができた。	・食に関する意識の向上のため毎年行っている「食育教室」は、来年度以降も継続して行っていきたい。成長期にある子どもたちにとって一番大切なのは「食」であり、日常的な給食指導を通して、食事のマナーや箸の使い方なども毎日の習慣として意識するため継続的に啓発していく必要があると思われる。	A	食に関しては、親のかかわりが大きいので、親さんの講演等も取り入れられたらどうでしょうか。 食育は学校だけでは、家庭での生活が重要になると思う。
		望ましい生活習慣の形成	・部活動の練習時間だけでなく、生活面全てを意識させ、「24時間部活動」を目指す。	・部活動で学んだことを生活で実践できるよう「24時間部活動」の目標を明確にし取り組む。 ・生徒主体で「立腰」、「自問掃除」を実施し、望ましい生活習慣の礎となる活動を徹底する。	A	・各部活動では、年間目標となる意気込みを記した「部活動パネル」を製作し、玄関ロビーに掲示した。時間を守ること、集合などの行動を機敏に行うこと、活動に集中して取り組むことなど、常日頃からやっていることが部活動の結果につながることを理解し、また部活動で培ってきたものが日頃の生活で活かされなければいけない。 ・「立腰」「自問掃除」は係の生徒の放送に始まり、放送で終わる。生徒主体の取り組みとして、落ち着きのある学校生活が送れていると感じる。成果として数値には出ないが、確実に活かされている。	・全生徒すべての「24時間部活動」の精神を持って取り組んでいるかと問われれば、そこまではいっていない。部活動ごとだけでなく、学年間でもっと意識をさせて取り組んでいく必要がある。部活動に入っていない生徒にも対応できるようにしなければいけない。 ・現状維持のままではマンネリ化をしてしまうので、常に自分を磨くことを忘れることがないように取り組ませることが大切である。	A	心身ともに健康に成長してくれるのが親の願いです。武北はバランスの取れた指導を行ってほしいと思います。 今後も冬場の行間体育を続けてもらいたいです。 生徒数が少なく部活数が少ないのが残念である。 部活動では、上下関係、それ以外においては生活習慣が大事だと思う。
③感動プロジェクト…人間力を育てる「夢プロジェクト」推進・豊かな心の育成									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者 評価委員 の評価 (A～Dで 記入)	意見や提言など
学校経営	●心の教育	「夢プロジェクト」の推進	・自主性を尊重し、果敢にチャレンジしていく生徒を育てる。	・総合的な学習の時間(夢タイム)を通して、地域の方と共に活動する場を設け、チャレンジしやすい学習環境を整える。 ・10月の文化発表会「夢きた祭り」で、夢プロジェクトの成果発表ができるよう指導する。 ・ユネスコ・スクールの活動を行っていることについて、広報活動を行う。	A	・総合的な学習の時間は、各学年が学年テーマをもとに活動を進め、地域の方の協力を得ながら地域理解に努めたり、自主的な取り組みを行った。1年：地域を知る、2年：地域にふれる、3年：地域に貢献する	・総合的な学習の時間は、テーマ達成のために振り返る時間を設け、確認・修正しながら活動を進めさせる。	A	少ない人数での活動は大変だと思う。 学年のテーマを変えてもいいのでは、自然豊かな若木・武内ならではの事をもとに選んだ目から見てもよいのでは。 生徒たちのやる気が見える。素晴らしい。 地域との交流を通し、子どもたちの質の向上になると思う。
	●いじめの問題への対応	教育相談の充実	・友達へのからかいや言葉遣いについて考えさせ、自他を認め合い、支え合う心を育てる。 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の相談日を分かりやすく文書で知らせ、相談しやすい。	・友達との関わり方や言葉遣いについて考えさせ、よりよい学級集団作りを目指す。(QUの利用、生活アンケートの実施等) ・道徳、人権教育の充実を図る。 ・生徒及び保護者にスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の相談日を分かりやすく文書で知らせ、相談しやすい。	A	・友達との関わり方や言葉遣いについてしっかりと考えることができ、グループでの活動等においても思いやりをもて取り組むことができています。 ・道徳、人権教育の充実を図るため、ふれあい道徳や人権集会、講演会を通して、生徒の心の安定を図ることができた。	・さらにグループ活動等を活性化するために、生徒間の関係性を向上させる活動を計画し実施していく。 ・スクールカウンセラーを通しての相談については、養護教諭と学年担当職員との連携で、気になる生徒やその保護者などへ声をかけ、適切なタイミングで実施できた。今の現状に満足することなく、今後も生徒の小さな変化に気付くことができるよう、職員間で連携を密に取っていきたい。	A	いじめ問題は、その子の人生を大きく変える問題です。先生方の日々の観察と指導に頼るばかりではありません。北中ではいじめ問題を現在のところ聞いたことがありません。先生方の指導のおかげで感謝しております。 少人数の学校故に、一人ひとりの状態を把握することが大事だと思う。
④地域プロジェクト…コミュニティ・スクールを活用した生徒の育成									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者 評価委員 の評価 (A～Dで 記入)	意見や提言など
学校経営	○保護者、地域住民との連携	コミュニティ・スクールの推進	・学校と地域住民、保護者が積極的に力を合わせてよりよい学校の運営に取り組む。	・年間3回の学校運営協議会を開催し、取り組みの1年目として体制づくりを行う。 コミュニティ・スクールの活動を行う。 ・ていることについて、広報活動を行う。 学校の様々な活動を通して、地域の方と共に取り組む場を設け、学校の様子を理解してもらう。	A	・年間3回の学校運営協議会と2回の地域学校協議本部会議を開催した。会議では4学校の取組をよく理解して頂き支援的風土が例年以上に感じられた。 学校運営協議会と地域協議本部のメンバー選出が大変であった。 青少年活動は評議員会を年間5回実施したが、毎回9割以上の評議員の方に出席していただき、意義ある会議は実施できた。	・学校運営協議会は回数を精選し実施していく。 ・地域学校協議本部の活動については、小学校との関係等について検討に来て頂く。 なかなか日常的に校内訪問に来て頂くことは難しいので、情報発信にさらに力を入れる。 会議への出席率が高いが、活動内容の工夫や新たな取り組みへの意見や提案がない。組織的、活性化につながる会議にす	B	子供がいなくてやはり学校の様子が十分伝わってきません。情報発信の方法を考えてほしい。 登下校時のあいさつがよく、このまま続けてほしい。 新たな提案ができるように努力していきたい。
	⑤その他学校運営に関わる取り組み								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者 評価委員 の評価 (A～Dで 記入)	意見や提言など
働き方改革	○業務改善及び勤務時間の管理	役割分担の明確化と時間外の勤務時間の削減	・職員一人一人に、勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制のための措置を講ずる。 ・時間外勤務について月45時間以内を目指す。 ・働きやすい職場づくりのための環境改善を図る。	・学校における働き方改革推進委員会を組織し、全職員で学校ができる業務改善・役割分担を時節ごとに見直す。 タイムレコーダーを活用し職員の毎月の時間外勤務時間を把握し適切な指導を行う。 挨拶や声かけを大切に、お互いが見守り合う組織作りを行う。	A	・4月当初に校務分掌の役割分担と適正化を図り校務の偏りを見直した。その結果、大きな行事は職員がお互いに事務作業を分担し多忙さを感じることなく仕事することができた。 ・定時退勤日の実施は、呼びかけはするが、現実不可能であった。 ・部活動の休養日の実施や土日のどちらかを休みにするは、完全実施できた。効果的な練習を各工部工を必要してもらった。ただ、土日の練習試合等は1日必要である。 ・心の健康チェック事業ストレスチェック分析結果では、職場の対人関係上のストレスが少ない傾向にある。また、上司からの支援策が多い傾向があるとの結果がでた。職員が互いにフォローし同僚性がある職場環境が整っている。	・学校は、4・5月そして年度末等時期によって多忙な時期がある。その時期は、見直しを持って効率的に業務を進め、「忙しいときは忙しい」という意識を持って全職員で乗り切る集団をつくる。 ・学力向上関係の計画報告書等毎年同じ傾向があるので、簡潔に作成する。 ・部活動については、オンシーズン・オフシーズンがあるので年間を通した適切な活動を行う。 ・長期休業中では学校休業日を独自に実施するなどオン・オフを使い分け心身のフレッシュを行う。年休取得を強く推進する。 ・月45時間以内の時間外勤務を達成するためにタイムレコーダーを活用し、職員一	B	働き方改革は大変だと思う。生徒とかかわる時間は大切にしたい。 小さな学校では特に先生方の負担が多いのでは。 業務の改善により、職場が明るくなると思う。 楽しい職場は先生方のやる気につながると思うので頑張ってください。 先生たちの負担増にならないようにして頂き、よりよい職場を作っていただきたい。
	4 本年度のまとめ・次年度の取組								
・今年度は、県研究指定事業学力向上研究の指定を受け2年目、「確かな学力と豊かな心を育み、生き生きと表現する生徒の育成」～主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりを通して～を研究主題に上げ、学力向上の研究に取り組んだ。9月下旬に昨年度から依頼している次世代研究センターの研究協力員の講師の先生を招き、授業研究会及び校内研をおこなった。授業の視点と「まとめ」と「振り返り」に絞って授業を見てもらい指導助言を受けた。これによりこれまで各先生方のとらえ方にアンバランス感があったが、講師の先生の具体的な指示や助言を受け学べたことで、やっと共通理解と実践の足並みがそろった。そして、11月22日に研究の成果の発表会を実施した。今後は、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の組み立て方についてまだまだ実践を重ねていく。生徒自身については、家庭学習の内容や方法について見直しを図り、「810大作戦」を引き続き継続し、学習習慣の定着を目指す。									
・そして、学びの学び(授業)と個の自学力(家庭学習)をしっかりとリンクさせる。									
・健康・体づくりについては、保健委員会を中心に保健計画に則って計画的に実践できた。特に体づくりでは、本校伝統の冬の業間体育で長距離走を行い、その成果を発揮する校内駅伝大会を実施した。									
・心の教育については、特に人権・同和教育・平和学習会・3・11集会を通して、お互いが認め合い支え合う人間関係づくりの力を入れた。また、いじめ問題については、日常的な観察を怠らず、また毎月の生活調査を実施し、生徒の実態把握に努め早期発見早期対応に心がけた。今後生徒会を中心に様々なイベントを企画させ主体的・協働的風土を醸成し、心身ともに健康な生徒の育成を図る。									
・働き方改革については、今年度も学校行事の精選・分掌事務や会議の効率化は取り組んでいる。今年度は教職員の意識改革を図るために、働き方改革具体例を年度当初に示した。タイムレコーダーを活用し残業時間の削減と勤務時間の意識化を図った。今後は、学校現場が改善できる業務をさらに見直し、教員本来の業務に専念できる環境をさらに整える。									